

研究シーズのタイトル

虐待認識のない障害者虐待への支援モデルの構築

研究者名

寺島 正博

所属

人間社会学部

研究シーズの専門分野

障害者福祉、ソーシャルワーク、地域福祉、権利擁護、虐待防止

研究シーズのキーワード

障害者虐待、虐待認識、養護者、障害者福祉施設従事者等、障害福祉サービス従事者、使用者、権利擁護、虐待防止、支援モデル、地域支援

研究シーズの概要

障害者虐待は、障害のある人の尊厳と権利を侵害する重大な人権課題である。本研究では、養護者、障害者福祉施設従事者等、使用者が、自らの行為を虐待として認識しないまま、結果として障害者の権利侵害や不適切な処遇に至る事例に着目している。本研究では、このような事例を「虐待認識のない障害者虐待」と位置づけ、虐待の発生要因、当事者間の関係性、支援者の判断過程、組織・地域環境との関連を実証的に明らかにすることを目的としている。従来の虐待研究では、虐待行為の類型や通報・対応件数に焦点が置かれることが多かったが、本研究は、虐待を行った者がなぜ自らの行為を虐待として認識しにくいのか、また支援者がどのように介入し、被虐待者の安全確保と虐待行為者への支援を両立させるのかに焦点を当てる点に特色がある。具体的には、市町村障害者虐待防止センター職員、障害福祉サービス事業所職員、相談支援専門員、企業関係者等を対象に、虐待認識のない障害者虐待への対応経験、判断の困難さ、支援上の課題、

関係機関との連携、再発防止に向けた実践知を明らかにする。また、養護者、障害者福祉施設従事者等、使用者の属性、障害理解、支援環境、職場・家庭・地域における関係性が、虐待認識の形成や欠如にどのように関係するのかを検討する。本研究の成果は、障害者虐待の早期発見、支援者のアセスメント、養護者支援、事業所内研修、企業における障害者雇用管理、市町村における虐待防止体制の強化に活用できる。最終的には、被虐待者の権利擁護と安全確保を基盤としつつ、虐待行為者や関係機関への支援を含めた、実践的な虐待防止・再発防止モデルの構築を目指す。

研究シーズの適用分野

本研究シーズは、障害者虐待の防止、早期発見、対応、再発防止に関わる幅広い分野に適用できる。特に、養護者、障害者福祉施設従事者等、使用者が自らの行為を虐待として認識しないまま不適切な関わりに至る事例に対して、支援者がどのように気づき、判断し、介入し、継続的な支援へつなげるかを明らかにする点に特色がある。また児童虐待、高齢者虐待、DV等の他分野における「虐待認識を伴わない不適切な関わり」との比較研究を通じて、対人支援領域に共通する虐待予防・権利擁護の理論化にも貢献できる。行政、福祉施設、医療機関、教育機関、企業、地域団体等と連携することにより、虐待を個人の問題としてのみ捉えるのではなく、家庭、職場、施設、地域社会における関係性や支援環境の課題として把握し、実践的な防止策を構築することが可能である。

共同研究が期待される外部機関

障害者虐待の防止・対応に関わる官公庁、自治体、福祉関係機関、医療機関、企業、民間団体等との共同研究が期待される。